

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース
- 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4・5面 統一協会ってナニ?/ジェンダーリレー講座/ホットライン
- 6面 アプリでグッズづくり/母の歴史
- 7面 新婦人のページ/主張/学校給食



横浜市 寺田陽子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

沖縄県知事選挙 (8月25日告示・9月11日投開票)

二度と戦場にしない 平和で誇りある 豊かな沖縄を

辺野古新基地建設の是非をめぐる決定的な対決の場となることも、復帰50年の沖縄県民のいちと暮らしかかった県知事選挙が、8月25日告示9月11日投票で行なわれます。「オール沖縄」の玉城デニー知事(予定候補)の再選へ! たたかいは始まっています。

公約・施策
実行率98・6%

「沖縄はこの4年間、首里城の焼失や新型コロナウイルスとのたたかい、軽石の漂着、ブタ熱など、大変なことの連続です。デニー知事はどんな困難なときも笑顔で県民のためにがんばってくれて、それが私たちの希望です」と新婦人県本部会長の久手堅幸子さん。

デニー知事は、新基地建設の工事中止を求めるとたたかいと合わせて、コロナ対策では無料のPCR検査所をひげ(全国平均の1・5倍)、全国に先駆けた検査体制をつくり、35人学級を中学3年まで拡大、支援学校の開校や就学援助の拡充などをすすめてきました(左図)。これまで291の

オール沖縄 辺野古新基地断念、オスプレイ配備撤回を求めた「建白書」実現をめざす保守・革新のみならず無党派も含めた共同体



コーラス小組の後でスタンディング (県直はごろも班・宜野湾市)

〈辺野古新基地建設をめぐる主な動き〉

- 2012年9月 普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設反対、オスプレイ配備撤回を求める「建白書」に全市町村長・議会議員、県議会全会派などが署名・捺印。
- 2013年1月 「建白書」を安倍首相(当時)に手渡す。
- 12月 仲井眞知事が安倍政権との密談で「埋め立て承認」決定。
- 2014年11月 県知事選挙で「オール沖縄」の翁長雄志知事が誕生。
- 2018年7月 県が「埋め立て承認撤回」を決定。政府は行政不服審査法を悪用して執行停止に。
- 9月 県知事選挙で故翁長前知事の遺志を継ぐ玉城デニー知事が誕生。
- 2019年1月 辺野古・大浦湾側で水面下90㍍に達する軟弱地盤を政府が認める
- 2月 新基地建設・埋め立ての賛否を問う県民投票で7割超が「反対」。
- 2021年11月 県が辺野古埋め立て設計変更申請を「不承認」。



デニー知事トークキャラバンで講演する玉城デニー氏(7月13日・横浜市)

辺野古新基地は断固反対

デニー知事は「平和で豊かな沖縄の実現に向けた新たな建議書」を発表。そこには普天間飛行場の一日も早い危険性の除去、辺野古新基地建設の断念、平和的な外交・対話により緊張緩和と信頼醸成を図ることでアジア太平洋地域の平和の構築に寄与することなど、県民の願いが凝縮されています。

玉城デニー(たまきデニー) 1959年うるま市生まれ、62歳。2002年政界へ、沖縄市議1期、衆院議員4期、沖縄県知事1期。

大きく前進

子ども医療費助成

3歳まで償還払い 仲井眞県政

↑

翁長県政で就学前まで
デニー県政で
中学卒業まで拡大!
窓口無料

35人学級

中3まで
全学年に拡大
デニー県政

↑

小3のみ
仲井眞県政

就学援助費

援助率24.1%
3万5261人
デニー県政(2020年度)

↑

援助率18.3%
2万6894人
仲井眞県政(2011年度)

公約・施策のうち287施策を推進、実行率は98・6%に達します。

復帰50年の
福祉の巨大な一歩

数かずの困難を県民目線で、切り開いた背景には、「オール沖縄」の県知事を誕生させたことがあります。2014年、新基地建設に賛成に転じ、

「子ども基金」をデニー知事も引き継ぎ、60億円

新基地もカジノも許さず、翁長さんがつくった

カジノ経済を持ち出した仲井眞県知事(当時現職)を大差で破り、翁長知事が誕生。その後、翁長さんの遺志を継いだデニー知事の「オール沖縄」の8年間があったからです。

新基地もカジノも許さず、翁長さんがつくった「子ども基金」をデニー知事も引き継ぎ、60億円

を積み増しし、子どもの権利条約尊重条例を制定、子どもの医療費を中学校卒業まで窓口無料にしたことをはじめ、政策を抜本的に転換。沖縄復帰50年の歴史に「もっとも巨大な福祉の一歩」と評される変化をつくりだ

〈2面〉

8月20日号は休刊です

